

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	小田 徳仁
研究課題	企業会計および財務報告における複式簿記の役割と和式簿記との接点				
研究キーワード	企業会計 財務報告 複式簿記 阿蘭陀	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	16. 平和と公正をすべての人に	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

今から 800 年ほど前にイタリアのベネチアやジェノバなどの海洋都市で発祥した「複式簿記」が、現在の日本の企業会計および財務報告にどのような影響を与えてきたのかを時系列的に研究している。その結果、「複式簿記」が存在しなければ、現在の資本主義経済社会がそもそも誕生し得なかったこと、また複式簿記が存在しなければ企業会計にも発展し得なかったことが確認できた。当然、財務報告は企業会計（特に財務会計）から派生した分野であるので、財務報告も存在不可能なことも確認することができた。また研究の過程で複式簿記が日本に伝播したといわれている明治 6 年より以前に豪商と呼ばれる商人の店（たな）の金銭等の記帳方法である「和式簿記」の仕組みが極めて複式簿記に似ていることが判明した。現時点では、和式簿記は日本で発祥した日本固有の簿記であるというのが日本簿記学会での公式見解となっている。しかし和式簿記には、キリスト教に由来する複式簿記固有の思想が組み込まれており、「日本で発祥した」という見解に大きく疑問が生じることになった。そこで本当に和式簿記は日本固有の簿記であるのか、それとも複式簿記の原理原則をコピーし派生した改良型簿記であるのかについて調査研究を行なっていくことにした。現時点では、日本には 1600 年代には長崎の出島にある阿蘭陀の商館に「複式簿記」の書物が持ち込まれている事実が当時の商館長の日記によって判明した。今後、キリスト教徒・阿蘭陀商人・複式簿記をキーワードとして、当時の阿蘭陀通詞の活動記録を調査し、阿蘭陀商人から日本の豪商にどのように伝授されたかを解明していきたいと考えている。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

なし

【学会発表等】

なし

3. 主な経費

個人研究費は、主に研究用書籍代・学会年会費・PC ソフト代・消耗品等に使用し、残額（122,443円）は新 PC 購入のために次年度への繰越申請を行った。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし